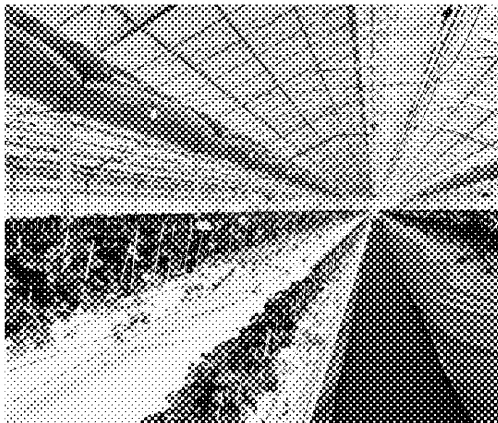


農業ハウス骨組みに木材



新圃場に採用した兼松寒川の「Green Ark」。鋼材などによる従来型のハウスの構造材の約42%を木材に置き換えた

いちごみらい舎（埼玉）玉置越谷市、原亮輔社長は、イチゴを栽培する都市型農園「越谷いちごみらい園」（同市）で新圃場を開設した。新圃場は兼松寒川（北九州市八幡東区）の次世代型農業ハウス「Green Ark」（商標登録出願中）を採用し、新圃場の敷地面積は

いちごみらい舎が新設

鋼材使用減、暖房費削減探る

いちごみらい舎は農業用生産資材の開発、製造、販売などを行うアグリス（福岡県八女市）の子会社。埼玉県産イチゴ「あまりん」「べにたま」をはじめとしたイチゴの栽培・販売、観光農園の運営を手がけるほか、アジアなど海外への輸出に力を入れる。

約3000平方メートル、栽培面積は2590平方メートルで、苗1万7000本を定植した。Green Arkは乾式保存処理により耐久性、防腐・防蟻性能を高めた木材を骨組みに活用し、鋼材などによる従来型のハウスの構造材を重量比約42%置き換えた。温室効果ガス（GHG）排出量は1棟当たり約13トンを削減できる。